



# ことば便り



墨田区立押上小学校  
 校長 島田 和久  
 ことばの教室 NO. 3  
 TEL 03-3617-6925  
 令和6年6月3日(月)



紫陽花が美しい季節となりました。恵みの雨ではありますが、雨が降り肌寒かったり蒸し暑かったりと、寒暖の差に体調も崩しやすい時期です。睡眠・食事をしっかりとって、元気に過ごせるようにしましょう。

## 6月

3日(月)在籍学級訪問開始  
 4日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後)  
 5日(水)グループ活動(吃音)(15時半～16時半)  
 11日(火)都難言協専門研究会(午後)  
 22日(土)押上小土曜授業「ことばの相談日」  
 25日(火)通級指導学級研究会(午後)

## 6・7月の行事予定

## 7月

2日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後)  
 3日(水)グループ活動(吃音)(15時半～16時半)  
 9日(火)都難言協専門研究会(午後)  
 12日(金)夏休み前 個別指導終了  
 17日(水)お楽しみ会(15時～16時半)  
 18日(木)専門家診断(午後)  
 22日(月)夏季休業日始  
 22日(月)～26日(金)通級補充日

※水泳の授業時間と通級の時間が重なる場合は、振り替えをしますのでご連絡ください。

## ○在籍学級訪問を行います

6月3日(月)から、在籍学級訪問を実施します。

授業参観後、在籍学級担任の先生方と情報交換を行います。事前に日程を打ち合わせの後、文書にてお知らせします。決定後に変更が必要な場合は、担当者にご連絡ください。お忙しいとは思いますが、当教室での支援に生かしたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。

## ○「ことばの相談」を実施します

土曜学校公開日に合わせて「ことばの相談」を実施します。お子さんの様子で以下の点についてご心配がありましたら、お気軽にご相談ください。その他、施設の見学ができます。事前に連絡の上、お越しいただくとスムーズです。

・「かめ」が「ため」、「き」が「ち」など発音の誤りがある。 ・年齢の割に話し方が幼い。言葉が少ない。  
 ・「ぼぼぼ、ぼく」「ぼーくね」となる、つまってことば ・文字の読み書きが苦手。練習しても身につかない。  
 が出ないなど、吃音がある(どもる)。 文字を正確に写せない。 など

◆ 相談日:6月22日(土)9時30分～11時30分

◆ TEL3617-6925(教室直通)

(上記以外でも、随時相談を受け付けております。その場合も、まず電話での連絡をお願いします)

## ○「聞こえにくい」子、いませんか？

「注意力が足りない」「説明を聞かずに行動する」「行動がワンテンポ遅れる」といった気になる様子が、きこえの問題に関係している場合があります。片耳だけが聞こえにくい片耳難聴の場合も、騒音下では聞き取りにくかったり、音源の方向がつかみにくかったり、疲れやすくなったりします。難聴の場合、語彙の習得に遅れが出たり、ことばでのやりとりに苦手さを感じたりすることがあるため、適切な指導を受けることが大切です。

墨田区には、言問小学校に「きこえの教室」があります。また、当教室でも相談を受けることができます。聴力検査で聞こえにくさがあったお子さんや、気になるお子さんがいましたら、お気軽にご連絡ください。

## 発音の指導について

### ◆日本語を構成している音は100以上！

「あいうえお」の母音だけでも、口を開けるときの大きさや形、舌の位置などが違います。さらに子音は、鼻に息を抜く音(マ行)、舌と上顎を使って出す音(タ行)など、舌の位置や息の出し方の違いによって、さまざまな種類があります。言葉話するとき、私たちはこれらを瞬時に使い分けているのです。

▼「は」の発音のかまえ



▼「ま」の発音のかまえ



### ◆発音の「誤り」って？

大きく分けて、①特定の音が他の音に置き換わるもの(サカナ→タカナなど)

②他の音で表しにくい「歪み(聞きにくい音)」になるもの の二つがあります。

また、舌や口唇など発語器官の動きの不器用さから、全体的に不明瞭な発音になることもあります。



### ◆どんな困り感があるの？

相手に伝わらない経験を繰り返したり、言い直しや注意を受けたりすることによって、自信を失ったり話さなくなったりします(二次障害)。加えて、無理に発音しようとして、不自然な力が入った「癖」がついてしまうこともあります。そのため、改善のための専門的な練習を、早期に受けることが大切です。

学級やご家庭では、たくさんおしゃべりがしたくなるような環境調整をお願いします。誤りを指摘せずに話をよく聞いてあげたり、周りの子がからかたたりしないように配慮していただくとありがたいです。



### ◆どんな指導をしているの？

子供一人一人の発音や発語器官の動きなどの状態を正しく把握し、なぜ誤っているのかを分析します。そして、改善に向けて計画を立て、指導を行っていきます。指導の内容は、大きく分けて4つあります。

#### 1 音を聞き分ける力をつける

正しい音と誤り音を自分で聞き分けられるようにします。そのことにより、誤った自分の発音を修正する力がつきます。



#### 2 舌や唇など発語器官の動きをよくする

正しい発音のためのベースになります。舌や唇の動きをコントロールする練習、舌の筋力を高める練習、舌の力を抜く練習などを行います。舌でグー・チョコキ・パーの形を作った舌ジャンケンなど、楽しく練習するようにしています。家庭では、お菓子をを使った練習などもお願いしています。



#### 3 正しい音を作るための練習

課題となっている音によって、方法は変わります。

例①: 音を作るのに必要な呼気の調節ができるようにします。

風車、シャボン玉、ストローなどで息を吹く練習を行います。

例②: 鏡を見て舌の位置を確かめたり、発音できる他の音を利用したりして正しい音を導きます。安定して発音できるようになるまで繰り返し練習することが必要です。100回、200回と続く練習を飽きずにこなせるように、すごろくや色塗りパズルなどを使い、楽しく取り組めるようにしています。



正しい音が出せるようになったら、単語の練習に入ります。好きなキャラクターの名前なども使って、繰り返し練習します。単語でも安定して出せるようになったら、短文や音読での練習に入り、最終的には会話でも正しく言えるように定着を図ります。順を追って練習することが大切です。単語で言えても会話では誤る、ということもありますので、引き続き指摘はせずあたたかく見守っていただくと子供たちも意欲的に取り組むことができます。